

ふじしろ政夫と共に市政を変える会

発行 ふじしろ政夫と共に市政を変える会 ニュース09年10月号

〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50 TEL&FAX 047-445-9144

E-メール masao.fujishiro@zc.wakwak.com ホームページ <http://e-kamagaya.com/>



市議会議員
ふじしろ政夫

“希望の構想”をうちたてよう！

2009年8月30日は、国民一人一人の一票によって政権交代を実現させました。この10年間の構造改革によって崩壊した医療、介護、教育そして雇用と社会的セーフティーネットを私達の手で作直す第一歩が切り開かれたのです。医療費33兆円は、OECDの中では

GDP比下位に位置し、必ずしも高すぎるわけではないことを知りながら「財政危機だ。老人の医療費をカットしろ！若者が払ってあげるの是不公平だ」と、あおりたて、地域医療をボロボロにした構造改革・新自由主義の政策を転換させましょう。若者も高齢者もお互い助け合う“皆保険制度”を再度つくりあげ、安心して受けられる医療を作りましょう。

教育に関しても、教育費をGDP比3.3%しか使わない日本。その反面、家庭の出費は21%と上から二位。家庭の経済力によって教育がうけられたりうけられなかったり、教育格差は、いまや経済格差と社会格差を固定化してしまっています。教育の公共性を私達の手

に獲得しなければなりません。

更に、「派遣労働法制」はグローバル企業が最大の利益をあげる為に、最も安価で使いやすい（首を切りやすい）労働状況に国民をおいつめていく制度です。まずもって安定的な労働雇用形態を作りましょう。色々な働き方があるとしても、その待遇は“均等待遇”でなければなりません。いまだに「派遣法を改正すると失業者が増える」と言って不安をあおる、事の本質を見切れない不見識なマスコミもあります。

しかし、国民の大多数はこれまでの政策、政権にNOをつきつけたのです。未来に希望が持てるような社会へ変えていくチャンスです。2008年サブプライムローンの破綻に始まった世界大不況の波は、今も大きく世界中をうねっています。米国でも日本（5.7%）でも完全失業率はあがりました。この大変革期に対し、“新しい産業”と“新しい社会構造”をつくりきれなければ、それは来るべき“戦争”へとつながっていくことは、1930年代の歴史を見れば明らかなことです。

絶望的な現在の状況に対して「希望の構想」を“政権交代”という最大のチャンスに私達の手でつくりあげましょう！

9月議会で決まったこと

16億円の補正予算(3号議案)

一将来展望を描けず 当面の経済結果を一

国の平成21年度補正予算（15兆円）をうける形で、鎌ヶ谷市も小中学校の耐震工事、地上デジタル対策、道路舗装など約11億円の補正事業が組まれました。財政難でこれまで実現できなかった事業を優先的に予算化した結果、当面の地域活性化（経済危機対策・公共投資）は見込めると考えられます。しかし、これからの新しい産業をうみだす為に公共サービスをどの領域で提供していくか、又雇用対策としてどう自治体がかかわるのかといった視点が十分でなく、こまぎれの雇用創出でしかなく、（墓地台帳の整備の為に2名とか早寝早起き朝ごはんのイベントに8名）介護労働者の条件整備、あるいは、IS値0.3～0.6の教育施設の耐震工事にまでその交付金を使い切れていないのは、国の交付金の出し方に問題があるとは言え、大きな課題を先送りにしてしまった感がします。

☆出産育児一時金42万円へ（1号議案）

平成21年10月1日～平成23年3月31日までの出産に係る出産一時金を現在の38万円から42万円に引き上げることとなりました。

☆IS値0.3未満の小中学校の校舎・体育館の耐震改修工事（5億580万円）

IS値0.3未満（震度6強で崩壊）の建物すべての耐震改修工事を実施。

国からの補助1/2、そして今回の地域活性化事業交付金を使って本年度改修工事に向けて動き出します。



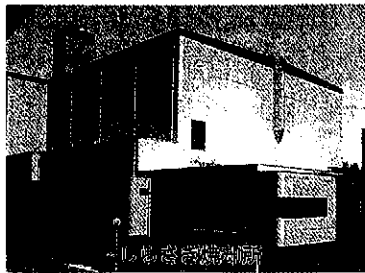
☆太陽光発電整備事業（3,483万円）

第五中学校屋上に太陽光発電の整備をします。20kwのパネルで省エネルギー対策とします。ただ、他の学校への計画はなく、この事業も単発の事業の欠点もっています。

ふじしろ政夫の一般質問

☆“ゴミ焼却”は

ダイオキシン・重金属・CO₂発生！



「廃棄物学会誌」の論文“レチ袋ゴミの課題と展望”の中で、色付レチ袋の21～26%に鉛が含まれていることが報告されました。ゴミを“焼却”処理することの問題点を指摘しました。鎌ヶ谷市はゴミ焼却を柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合にまかせているので、諸々の課題は組合で協議することになります。

ごみの排出量の79%を焼却処分

市民生活部長：鎌ヶ谷市のゴミ排出量は32,700トン、その内25,900トン（約79%）を焼却しています。

しらさぎ焼却炉から協定値を越えたダイオキシン

ふじしろ市議：プラスチックを焼却するとダイオキシン、重金属、CO₂が発生しますが、ダイオキシンが協定値より高い値が出たようですが？

市民部長：平成20年11/11測定値0.23ナノグラム、平成21年2/20 0.21ナノグラム、地元との協定値0.1ナノグラムを超えました。（規制値5ナノグラム）ろ過式集塵機などの清掃、修繕で6/17測定0.063ナノグラムに改善されました。

プラ系ゴミを焼却すると重金属が

ふじしろ市議：レチ袋（プラスチック）ゴミには平均して一枚当たり310ppmの鉛がある計算になります。焼却すると排ガスに鉛が出ることが明かです。排ガスの重金属調査をすべきです。

市民部長：組合と情報共有し、調査研究します。

燃やさないごみ・硬質プラスチックを焼却

ふじしろ市議：市民には燃やさないゴミとして出させている硬質プラスチックを焼却して、CO₂を330万kg以上増加排出しているのは問題です。

市民部長：組合と検討していきます。

生ゴミの堆肥化で減量化

ふじしろ市議：焼却ゴミの24%を占める生ゴミの堆肥化で減量できるのでは……

市民部長：家庭用生ゴミ処理機の設置の普及を図っています。

☆保健・医療・福祉のトータルな 仕組みで“地域医療”を

地域医療の先進県、長野県（佐久総合病院）の実践をどう鎌ヶ谷市に活かせるだろうか。住民参加による予防・保健・医療・介護・福祉のトータルなシステム＝地域医療（循環型地域医療連携システム）を作っていくには何が課題なのかを明らかにしたく質問しました。

長野県の平均寿命 男：81.71 女87.13 鎌ヶ谷市は？

健康福祉部長：男性79.3歳、女性86歳です。

在宅死について

福祉部長：自宅で最後を過ごしたいと思う方が83.3%ですが、実際は在宅死全国で12.3%、県は13.4%です。

鎌ヶ谷市の医師・かかりつけ医・在宅療養支援診療所は不足

福祉部長：10万人当たりの医師の数は県平均150人、本市は90人です。（参考：日本国211人ヨーロッパ300人）市民調査では、かかりつけ医がいる人は48.3%でした。往診してくれる在宅療養支援診療所は2ヶ所で、全市民カバーは厳しい状況です。



ターミナルケア（終末医療）には医療機能が充実していない

福祉部長：在宅死亡が1割しかないのは、家庭ケア機能、在宅看護を支える医療機能が充実していないことです。支援体制の構築に向けて努力したい。

小児救急は不十分

福祉部長：小児救急体制は十分とはいえない状況です。鎌ヶ谷総合病院へ24時間365日の実施を要請していきます。

「保健・医療・福祉協議会」の活動を活発に！

ふじしろ市議：保健・医療・福祉のトータルな地域医療を作っていく為に、協議会が平成19年に作られたのです。もっと活発に活動して鎌ヶ谷市の地域医療の形成にご尽力下さい。

メディコ・ポリスは？

福祉部長：市内の社会資源と総合病院の機能を活かし、医療・福祉・介護・教育のまちづくりへの展開ができるよう図りたい。

☆きわめて危険 くぬぎ山踏切

国道464号の新京成くぬぎ山踏切は、いつも交通渋滞、又狭くて危ない状況であることが確認され「市民の意見を聞きながら、県に早急に対応を求めていく」との市の決意が述べられました。

同じように木下街道の交通渋滞を引き起こす鎌ヶ谷大仏踏切の課題は、新京成の高架か、道路の形状を含めたまちづくりの中で解決していくとのことです。

大きな障害を引き起こし、改善が必要

都市建設部長：くぬぎ山踏切はボトルネック踏切で交通渋滞は、日常生活に大きな障害を引き起こし、改善が必要です。道路か踏切の立体化によると同時に、北千葉道路の建設で渋滞の解消を検討しています。



歩道スペースがなく極めて危険

都市部長：踏切の内外での道路幅が異なり、踏切内が狭くなっており、歩道スペースがないため、歩行者、自転車通行に際し、極めて危険な状況です。

市民の声を聞き県に早急に対策を求める

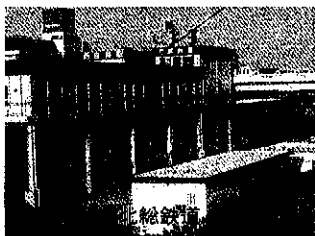
都市部長：改善にあたってはくぬぎ山地域の方々の意見を伺います。踏切内及び外側も含めて改善する旨、千葉県にお願いしています。早急な対応をするよう求めます。

大仏交差点改修工事平成24年完成を要望

都市部長：改良事業は、大仏周辺地域にとって必要不可欠です。平成24年度完成を県にお願いしています。

これでいいのか？北総鉄道運賃値下げ

—鎌ヶ谷市毎年1,200万円負担—



9月5日森田知事と沿線6市2村の首長が千葉市内のホテルで、北総線の運賃値下げについて話し合いました。これまた非公開です。

8月5日最終通牒的に県から沿線自治体に値下げ案が提示されています。一自治体でもNOと言えどもう値下げのチャンスはないかのごとき……

最後まで異を唱えていた船橋、鎌ヶ谷、白井も提案通り5%値下げの為、6市2村で毎年2億円を負担することに（5年間）同意したとの報道が伝わってきます。

国の責任・負担、県の都市機構の責任と負担が明確にされず、又北総鉄道と京成との間での線路使用料の問題もどう解決されたかも示されず、ただ…市の負担を補助でなく出資へ、又、国の関与とこれまでの会を存続させ更なる検討をしていくことに「努力をしていく」との県知事の回答が、精一杯……。これで市民に説明できるのだろうか？

千葉県の民主党では9/7北総鉄道などの運賃値下げについての政策研究会（発起人 若井やすひこ）を立ち上げました。抜本的解決策を一日も早く国の提言として出して欲しいものです。

“大幅な運賃値下げ”で北総台地の発展を！

平成20年度決算認定

一般会計は歳入249億1,680万円、歳出239億7,303万円で実質単年度収支は3億5,676万円の黒字。持続可能な財政へと一歩踏み出しました。経常収支比率は99.6%から95.6%へ、積立金も15億円確保、財政健全化比率はすべてクリア、財政力指数は0.833と改善できました。

内橋克人さん“労働”を語る



協同労働（働く者が出資し、経営し、働く）協同組合の30周年を記念して、内橋克人さんの講演がありました（9/5）。

内橋さんは“労働とは？”と人間存在に係わる問題から入り、「職なければ人間の尊厳なし」と語り、人間の尊厳に値する働き方の中に、その意味を見い出しました。そして「市場原理主義下の労働は疎外された状態であり、“人間は搾取の対象でなく、排除の対象となってしまう”と鋭く新自由主義の経済学を批判しました。

更に米国と日本の状況を比較して「新自由主義者のフリードマン（シカゴ学派）は“公衆衛生の不用”“福祉は国家による窃盗だ”と勝った者がすべてを奪い取ってしまう社会を是とする理論を展開した。しかし、その考えに従ってきた米国ですら、リーマンショック以降オバマ大統領は、①国民皆保険に向けた政策を展開する ②所得の再配分を実施する政策に転換し始めている」「にもかかわらず、日本では湯浅誠が言うようにNOと言えない労働＝いかなる条件でも働かなければならない状況におかれた労働といった貧困の装置化がおこなわれている」とその問題点を指摘しました。

そして「人が人らしく生きていける社会の労働とは、①生きていくことの安全性 ②生き方の選択ができる ③社会的に排除されない中で“社会的有用労働”が満たされている状態をいう」それ故「介護・医療・教育といった“社会的共通資本（宇沢）”をつくり出す労働こそ協同労働が対象とすべき」と労働についてあるべき姿を語りました。

最後に「21世紀の新しい日本の基幹産業は、F（食糧）・E（エネルギー）・C（ケア）自給圏をつくることであり、そこに最先端の新しい雇用と新しい産業が生まれることが真の改革である」と日本の進むべき方向性を示しました。

「集中改革プラン21」

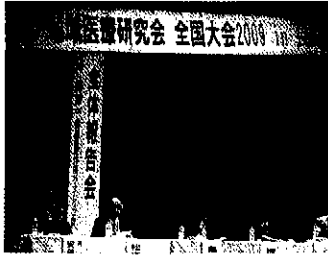
—平成20年度19億円の効果—

“持続可能”な行政運営を目指し、毎年「集中改革プラン21」に基づき、行革を推進しています。平成20年度は、職員採用の抑制で7億7,600万円、諸手当の見直し、残業の抑制で1億8,000万円、市税の収納率アップで5億5,000万円などで計19億2,041万円の（平成16年度比）財政効果を生み出しました。

ただ、“夜間・休日急病診療事業”の廃止は1,500万円ほどの効果を出しましたが、小児救急体制の劣化を生み出してしまった問題もあります。

地域の再生・地域医療の再生

—地域医療研究会 全国大会2009—



小泉構造改革によって崩壊させられた地域と、地域医療をどう再生していくのか「地域医療研究会全国大会(長野)」にて議論されました。佐久総合病院夏川院長からは「若月(佐久総合病院)、吉澤(浅間病院)、今井(諏訪中央病院)諸先生がつくられた“地域に出ていく医療・住民の望む医療を地道に継続していく医療(医療の民主化)”を継承発展させていく必要性」が語られました。

基調講演した金子勝教授は「構造改革を単に格差を生み出した部分的失敗と捉えるのではなく、“経済政策として全面的に失敗したもの”として根本的に批判する必要性」を訴えました。「0金利はグローバル企業が輸出を拡大し、利益を獲得していく為の政策であり」「何一つ新しい産業構造を生み出さなかった改革であったが故に、新エネルギー政策がとれず環境税すら制定できなかった」と批判しました。そして医療面で「①医療皆保険制度の崩壊 ②インセンティブによる医療改革によって入院日数等サービスの減少 ③大病院に医師・看護師を偏在させた」と今日の医療崩壊の内実を鋭く分析しました。

シンポジウムでは、東金市のNPO「地域医療を育てる会」の藤本晴枝さんが、一人でも出来ることから始め、今医師育成サポーターといった住民活動で東金病院と信頼関係が作られている様子を語りました。

佐久病院老人保健施設長 清水氏は若月俊一先生の農村医学から21世紀的課題として「メディコ・ポリス」構想を①医療・福祉システムの整備②教育施設の充実③住民の生計確保の産業振興といった点から語りました。

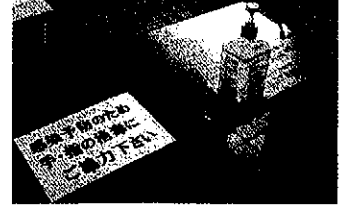
長野県の地域医療の実践と実績、課題と問題点をどう全国各地の地域医療の再生に結びつけていくのかが問われるシンポジウムでした。

手洗い・うがいをしましょう

—新型インフルエンザ広がる—

9月に入り、新学期も始まり、突然、新型インフルエンザの感染が小中学校で広がっています。

西部小、北部小、鎌中、二中、三中など次々と学級・学年・学校閉鎖となっています。これから10月にかけて感染が広がるのでは…と予想されています。地域の医療機関の連携体制が必要です。十分な睡眠と、手洗い・うがいを励行しましょう。



☆プレミアム商品券1億円(1,200万円)

鎌ヶ谷市商工会が実施する10%プレミアム商品券1億円分に対して1,200万円の補助が今議会で決定しました。

11月1日より販売開始の予定。今回は大型店でも使用できる券もあるとのことです。

こんにちは大仏さま



鎌ヶ谷市の文化財指定第1号の鎌ヶ谷大仏。

大仏ソングも出来て、一時は若いカップルが歌に惹かれてやってきました。あの熱気は……

鎌ヶ谷市民みんなが愛する大仏さんです。見守ってください。

ふじしろ政夫 市政報告会

☆9月議会報告(決算認定・後期基本計画)

☆“地域医療”・“ゴミ焼却”・“くぬぎ山踏切”についての一般質問など

10月25日(日) 13:30～ まなびいプラザ

お知らせ

☆市民自治 “市民の公共をつくる”

10/14(水) 19:00～ 中央学院大 1,000円

☆国際フォーラム「世界が目にする 生物の多様性」

11/12(木) 13:00～ 千駄ヶ谷 津田ホール
(要申し込み) 無料

☆泉 市政報告会 10/18(日) 14:00～ 道野辺コミセン

☆津久井 市政報告会 11/1(日) 13:30～ まなびい

☆鎌ヶ谷で初めての第九演奏会

11/22(日) 14:00～ 市民体育館

1,000円(学生500円) チケット取扱い: KAOの会

□法律弁護士無料相談

—要予約 ふじしろ市議まで—

10/17(土) 11/28(土)

13:00～

□碁楽会 毎週金曜日 13:00～

(事務所トライ)



虫の声を…

鳴く虫を見よう! 聴こう! 探してみよう



「栗野の森の会」による虫の音を聴く会が開かれました。

栗野コミセンには小出さんが用意した“すず虫”“松虫”“えんまこおろぎ”“くつわむし”“うまおい”“きりぎりす”が置かれておりました。参加した子供達は虫めがねでみたり、さわったり、聴いたり、それは楽しそうでした……。そしてその後まっくらな栗野の森に出かけ虫の音を聴き“うまおい”などをそっとつかまえる楽しい一時を過ごしました。

鳴く虫の女王と呼ばれる(鳴くのはオスだそうです)カンタン音色を改めて十分聴くことができました。